

1年間をふい返って



今年度は、6月の分散登校からスタートといういつものとは違う一年間となりましたが、残すところあと1か月となりました。感染症対策をしながらできることはやろう！という姿勢で教育活動をしてきましたが、保護者や地域の方に学校へ来て子どもたちの様子を見ていただく機会が少なかったので、3月号では、各学年の1年間の様子をお伝えします。

1年生



今年度のスタートは、教室に13、4人しかいない分散登校でした。教室がとても静かだったのを覚えています。後から個人面談でお母さんたちから「お友達ができるか心配しました。」という声も聞こえてきましたが、一人ひとりに丁寧に鉛筆の持ち方を教えたり、授業で発言のチャンスがたくさんあったりと、良いこともあったスタート期でした。

全校で行う「1年生を迎える会」はできなかったのですが、6年生がクラスごとに「プチ1年生を迎える会」をしてくれました。拍手で迎えられアーチをくぐっての入場に、とてもびっくりしていました。会の終わりに、「入学してよかった!」「6年生大好き!」と言っていた子どもたちです。

ズーラシアへの遠足は、クラスで列をつくってではなく、グループで動物を見学しました。また、実行委員を立てて準備し、当日に臨みました。写真は出発式の様子です。実行委員が立派だったのはもちろん、全員が感染症対策のための様々な約束を守って行動しました。話の聞き方も立派で、素敵な遠足になりました。

2年生



最初は分散登校などもあり、クラスの友達を把握したり、学校のリズムを取り戻したりするのに時間がかかる子も見受けられましたが、夏休みを過ぎたあたりから、徐々に友達同士が関わり合う姿が見られるようになりました。

こども自然公園遠足では、公園内をグループで秋探しをしながら歩きました。グループで協力しながら時計を見て、行動しました。いろいろな種類のドングリを見つけたり、様々な種類の落ち葉を集めたりしていました。また、初めて電車を使って移動するという経験をし、電車・公園など公共施設でのマナーも学びました。

生活科では、空き容器やペットボトルキャップなどを使っておもちゃづくりをしました。いつもは捨ててしまうものでも、材料の使い方次第でいろいろなおもちゃができることや、ルールを工夫して、さらに楽しく遊べることに気がきました。学習の最後には1年生を招待して、遊び方やルールを一生懸命説明していました。少し上級生になった姿も見ることができました。

3年生



3年生になって、理科・社会・習字・図工の絵の具と新しい学習が始まりました。社会では、自分たちのまちに興味をもち、横浜市の特徴につなげていきました。

上の写真は、消防署見学に行ったときの写真です。実際に働いている人の話を聞いたり、訓練室やはしご車などを見たりすることで、学習が深まっていきました。

長屋門公園の見学にも行き、昔の暮らしについて学習しました。昔の家を見たり、昔の遊びを体験したりすることで、暮らしの移り変わりを実感しました。石臼で大豆をきなこにする体験もしました。

個別級



1年生から6年生まで、21名の子どもたちが在籍しています。一人ひとりの力や特性に合わせた学校生活や学習活動ができるよう、担任4名で協力して支援・指導してきました。

学級園では、さつまいもを栽培・観察し、秋には高学年の子が低学年の子をリードしながらいもほりを行いました。

生活の学習では、1・2年生「おもちゃランド」に「じしゃくの車やさん」を5組で出店し、車の作り方や遊び方を説明し、楽しく遊びながら交流を深めました。

毎年、瀬谷区合同学習発表会があります。今年は残念ながら、公会堂のステージでの発表はできませんが、録画したものを各校で見合い、発表会としました。

4年生



運動会では、FLCフラッグスを結成し、ソーシャルディスタンスを保つため、フラッグを用いて表現活動を行いました。流行りの曲に合わせて、ときに凛々しく、ときに楽しく表現をしました。また、4年生は、今年から応援団にも参加し、入った児童は大きな声を張り上げながら力いっぱい応援しました。制限がいろいろかかる中でしたが、児童のはじける笑顔が見られた行事となりました。

今年は社会科で学習した箱根町に体験学習に行きました。彫刻の森美術館で本物のアートに触れたり、学習した伝統工芸「箱根寄木細工」を作成したりする体験を行いました。

また、毎年4年生は福祉体験を行っています。今年度も外部の福祉団体の方からお話をいただいたり、白杖を使って視界を遮られて歩く体験をしたりしました。また、簡単な点字や手話の学習も行い、障害をもつ方たちのことを社会がどのようにサポートしているのかに関心をもっています。

5年生



毎年5年生は音楽鑑賞の機会があります。みなとみらいホールで行われた心のふれあいコンサートに行き、オーケストラの演奏を聴きました。ホールに響き渡る素敵な音色を肌で感じることができました。

また、宿泊学習の代わりに、愛川体験学習（服部牧場）に行き、牛の乳しぼりやバター作りを体験しました。社会で学習した「地産地消」にもふれることができました。

今年は、6年生と球技交流会を行い、サッカーとバスケットボールに分かれて試合をして仲を深めました。最高学年である6年生の姿を見て、協力することの大切さを学びました。



6年生



今年度は、6年生も1年生も楽しみにしていた交流が思うようにできませんでした。「1年生を迎える会」をすることができなかったため、交流クラスで「プチ1年生を迎える会」を6年生が企画して行いました。1年生は緊張していましたがとても喜んでくれました。その後も、出来る限りの交流を続けていき、今では仲がだいぶ深まりました。

日光修学旅行では、感染対策を徹底して行ってきました。行けるかわからない状況だったので、行くことが決まったとき、子どもたちはとても喜んでいました。子どもたちは感染予防をしっかりと意識し、安全に楽しく修学旅行に行くことができました。

運動会では、今までソーラン節を踊ってきた6年生ですが、様々なことを考慮し、今年度は「Big Wave」を踊りました。しなやかな動きや、タイミングをずらした動きを覚えるのにとっても苦労しましたが、本番は、最高学年らしい立派な演技を保護者の方や在校生に披露することができました。

市書写展・図工展表彰



二つ橋小学校の代表として選ばれた5名が、校長先生から賞状を受け取りました。作品は、1月に横浜市民ギャラリーで展示されました。

マラソン集会



今月は、各学年で決められた日の中休みに校庭に出て、マラソンをしました。どの学年も進んで参加し、自分のペースで走り、体力づくりに励んでいました。

児童支援専任より

新年度は教育の「ICT 元年」となると言われる中、学校では教育の内容や指導の在り方など、新たな学びへの模索が始まっています。

背景には、世界で情報化が急速に進む中、日本の学校現場のICT環境の脆弱さや地域格差が課題になっていることや、個々の子どもたちの理解度や背景にあわせた指導が求められていること、さらに、感染拡大による一斉休校の際に全国的にオンライン授業が十分できなかったことなどが挙げられています。

こうした中、文部科学省の中央教育審議会が先月まとめた答申では、『すべての子どもたちの可能性を引き出すための、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現には、ICTは必要不可欠で、子どもたち自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できる環境整備が重要』だとしています。

新年度以降は、ICTの活用自体が目的化しないように、これまで培ってきた指導とICTを適切に組み合わせることが重要だと思います。これからの日本の未来を支える子どもたちを、学校・家庭・地域で育てていきましょう。

欠席したとき

欠席の連絡を電話やメールでお知らせいただく場合、次の日の時間割や持ち物などの連絡ができない場合があります。その場合、固定の時間割で学習の準備をしてください。

